

明日を担う生徒を育てる 「総合的な学習の時間」のあり方

—第1学年の取り組みを通して—

川原 亜 弥*・三 榊 正 典

How to Create "the Period for Integrated Study"

—Through the Classes for the 7th Graders—

Ami KAWAHARA and Masanori MIMASU

Abstract. This paper reports the effectiveness of the practice of "the Period for Integrated Study" for the 7th grade students. In this course, the students acquired the basic research method that they will need in the advanced course of "the Period for Integrated Study" next academic year.

They were studied the basic method of presentation, interview, questionnaire survey, how to use internet, and raising conscious of "Barrier - free". Also they learned how to cooperate each other in the groups.

Key words: integrated class, basic research method, cooperation

I. はじめに

1 本校における「総合的な学習の時間」

本校では「自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力をつける」こと、「学び方やものの見方を身につけ、問題の解決や探求活動に主体的、創造的に取り組み、自己の生き方を考える」ことをねらいとして、1999年度より「総合的な学習の時間」を設定し実践・研究をしてきた。

2・3学年においては昨年度まで、教科の専門的な内容に重ならないテーマ（国際・文化・環境・福祉・くらし）で「研究的な学習」を行ってきたが、本年度より表現力・コミュニケーション力の育成を目的として、「横断的な学習」の4テーマも設定し取り組んでいる。

2 1学年における「総合的な学習の時間」のねらい

第1学年では「学年・学級・グループ・委員会・係・部活動などのさまざまな学習集団で目標を設定する中で課題を的確に把握し、主体的に自己の役割を果たすことで、ともに高め合う集団を作っていくことができる力を養う」こと、「第2、3学年で実施される『研究』および『横断的学習（表現コミュニケーション力）』グループ所属のための基礎的・基本的な知識・技能を育成する」ことをねらいとし、総合的な学習を行っている。

*広島県教育委員会派遣研究員

本年度は昨年度の反省から開設講座を5つに絞り、前期・後期通年での授業を行っている。

Ⅱ. これまでの研究の経緯

1 2001年度の実践

1999年度より第1学年では、第2学年以降の「研究」につなげるための導入として「総合的な学習の時間」を位置づけ、「身近な環境から考える」をテーマに、学年内で小集団を編成し、研究を推進するための方法や考え方を学んできた。実践を進めていく中で研究推進に対する方法や技能の習得において一定の成果が得られた一方で、第2学年以降の5つの研究グループすべてに関連する内容として第1学年でのテーマを設定するには至っていないという課題が見えてきた。2001年度はこの課題を検討し、「研究を推進するための基礎的・基本的事項」を学習内容として整理し取り組んだ。具体的にはテーマに関する情報収集の方法やその手順、校外での調査・研究活動の企画・立案の方法、依頼文書などの対外文書作成や電話・訪問時におけるマナーなど、研究を進める上で直接的に必要な技術・能力の育成をねらいとして学習内容を設定した。それに加えて集団の中で自分の役割を的確に把握し行動する力を育成するために、レクリエーションやグループワーク・トレーニングを中心とした学習課題も設定した。このように前期5講座、後期5講座の合わせて10講座を全員が受講できるように、学年を10グループに編成し、ローテーションで1講座あたり2グループを合同で受講させた。

評価については、授業開始時に4つの目標を生徒に提示し授業中に生徒個々へ評価活動を展開するとともに、各講座の終了前に自己評価活動を実施する時間を設定し、生徒が自己評価した内容に対して授業者が指摘や指導・支援を加えながら最終的に生徒と授業者が合意して評価を決定する方法をとった。

2 成果と課題

2時間×2を単位とした小グループのローテーションによる方法は、2学年以降の「研究活動」を円滑に推進するための基礎的・基本的事項を整理して取り組むことができるという点では成果を上げた。また、全生徒がどの講座も受講したことで幅広い内容を学習することができた。反面、1講座の授業時数が2時間×2と限られているため講座の内容が単発的なものになる、内容が2学年以降の「研究」への系統性に欠けるものがあるなどの課題も残った。

また昨年度の取り組みが2学年以降の「総合的な学習」においてどの程度活用できているか、生徒の意識調査を行ったところ、33%の生徒が「とてもよく活かされた」、「活かされた」と解答した。逆に「活かされなかった」と答えた生徒も37%おり、すべての講座が今年度の「研究」に活用されているとは言えなかった。そこで今年度の取り組みを行うにあたり、1学年担当教官で講座の見直しを行い、来年度以降の「研究」をより意識した内容を検討し実践をしていった。

本研究は、そのように見直しをした講座の中からアンケート調査・集計の講座に視点を当て、1年間の取り組みの内容とその成果を報告し考察するものである。

Ⅲ. 2002年度のとりくみ

1 1学年の取り組みの概要

昨年度の反省から今年度は前期・後期通年で情報処理・インタビュー・プレゼンテーション・バリアフリー・アンケート調査・集計の5つの講座を開講することとした。1組から3組までの生徒を5つのグループに分け、それぞれの班が2時間×2（前期・後期とも）を単位としてローテーションで各講座を受講する形式を（図1）とった。前期は各講座の内容にそって各自・各グループのテーマを決めて取り組み、後期は前期に取り組んできたものをまとめ発表する形で、本校の提案する3つの力の一つである「表現・コミュニケーション力」に視点をいた活動を学習の中心に据え、授業実践をした。

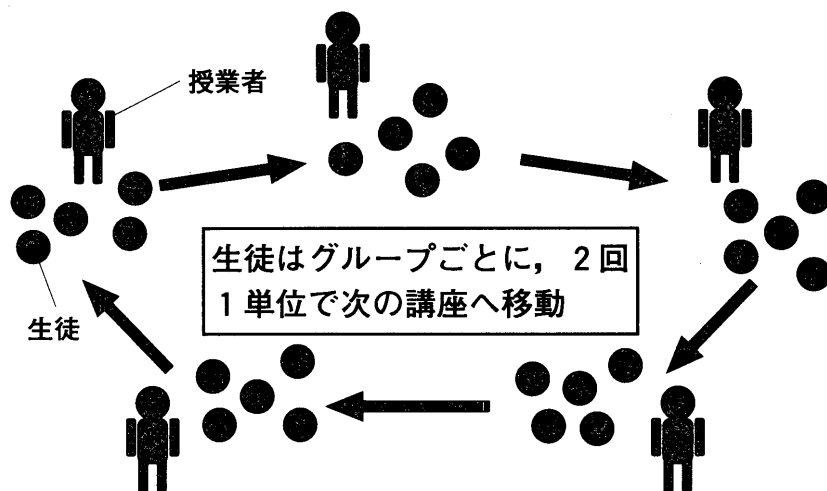


図1 ローテーションでの講座形式

2 各講座の取り組みの概要

(1) 情報処理

さまざまな情報の中から情報を収集する方法を学習することを目標としている。前期は小グループごとに「日本の歴史上有名人カード」のジャンルを決め、生徒一人一人が誰について調べるかを決め、情報を収集する。後期は前期に収集した情報を整理し、カードを作成する。小グループごとに発表をすることで情報の発信の方法について学習する。

(2) インタビュー

前期は人から色々なことを聞く方法を学習することを目標としている。具体的には、学校周辺の警備をする方などいろいろな分野の専門家にインタビューし、対話によって情報収集するときの質問の内容や対話の仕方を学習する。後期は前期に小グループごとに実践したインタビューの結果の発表会を通して、人に分かりやすい表現方法を学習する。

(3) プレゼンテーション

プレゼンテーションを通して、話し方を中心に分かりやすい表現方法を学習することを目標としている。3～4人の小グループに分かれて、テーマをしばって2～3分間で世界の国々を紹介する

プレゼンテーションをおこなう。前期は説明を中心に発表し「分かりやすい話し方」を工夫し、後期は視聴覚教材を利用し、さらに分かりやすい発表方法を工夫する。教材提示装置やプロジェクターを使用したプレゼンテーションを学習する。

(4) バリアフリー

バリアフリーについて考えることで、これからの自分の生き方を考えることを目標としている。前期はバリアフリーについて書籍などで調べる。また今までの生活の中で、困ったこと、周囲の人が困っていたことをふり返り、どのようにしたら住みやすい社会になるかを考える。後期は車いす体験を通して校内バリアフリーマップを作成し、バリアフリーと自分、またこれからの自分の生き方について考える。

(5) アンケート調査・集計

質問紙の作成・集計方法についての基礎的事項を知ることが目標としている。前期は質問紙の作成・集計方法についての基礎的事項を学び、実際に小グループで質問紙を作成する。後期はアンケートの結果を集計・分析し、それを分かりやすく発表する方法を学習する。

3 「アンケート調査・集計」講座での取り組み

(1) 講座のねらい

幅広くかつ一斉にいろいろな人の意見を聞くときに、アンケート調査は有効である。私たちの生活の中でも、雑誌や商品についてのアンケート、最近ではインターネット上でのアンケートもさかんに行われている。本校の総合的な学習の「研究」においても、生徒や保護者また場合によっては地域の方々などの意見や考えの傾向を調べる場面はよくある。

生徒の中にはこれまで小学校の委員会活動や、学級新聞などでアンケートを作り調査した経験をもっているものもいるが、「応えたことはあるが、作ったことはない」という生徒が多かった。

本講座では次年度からの「研究」においても、必要に応じて「対象者」が応えやすくかつ自分たちが調べたいことを調査できるような質問紙を作ることができるように、アンケートについての基礎を学び、「対象者」である「相手」を意識したアンケートができることをねらいとした。

(2) 前期の取り組み

前期はアンケートについての基礎を学び、自分たちの知りたいことがうまく質問できるような質問紙の作成の方法を学ぶことを目標とした、

① 全体での学習

前期1時間目は、アンケート調査や質問紙についての基本的なことを学習した。「アンケートはどんな利点があるか」「どのような種類のアンケートがあるか」「どのようなアンケートが応えやすいか」など、生徒自身の経験から思いを出し合い、それをまとめていく形で行った。小学校時代にクラスの新聞や委員会活動などでアンケートを実施した生徒もおり、その時の経験や応える側の気持ちなども出し合うことができ、「質問する方の意図が伝わり、かつ応える側にとっても応えやすいアンケートとは？」ということについて考えるよい機会になった。

② 小グループでの活動

2時間目からはさらに2～3の小グループ（1グループ6～7人）に分け、どのようなテーマでアンケートを行うか話し合わせ、質問したい内容を出し合いまとめさせた。3・4時間目には実際に質問紙を作成させた。作成に当たっては、アンケートをとる目的を明確にさせ、さらにそのためにはどのような質問をする必要があるか、また応え方はどのような形式が適しているか（例えば○・×、選択肢、自由記述など）をよく考え、自分たちの調べたいことの内容に適した質問を考えるように指導した。また質問紙のレイアウト、イラストや、アンケートを依頼する文、お礼のことはなども考えさせることで、できるだけ高い回収率になるように工夫する指導もおこなった。そしてひととおり質問紙を作成した後は、そのアンケートに自分たちで応え、質問の内容や方法を検討する作業をおこなうなど、「相手を意識した」質問紙の作成を心がけさせた。

③ 生徒の作成した質問紙の例

	アンケートの題目	主な質問項目
1	○週5日制について 他の人が休日をどのように過ごしているか調べて伝える	・週5日制になりどう思うか ・休日の外出について
2	○家庭での生活習慣について 家庭での生活習慣を調べ、これからの生活に役立てる資料にしたい	・朝ご飯を毎日食べているか ・休日はどのように過ごしているか ・休日は手伝いをどのくらいしているか ・休日に家族とどのくらい話をするか ・睡眠時間はどのくらいとっているか ・休日で体の疲れがとれるか ・疲れがとれる人はどういう工夫をしているか
3	○東雲憲章について 東雲中学校をよりよい学校にするため	・東雲中学校のよいところは何か ・校則がないことをどう思うか ・東雲憲章は校則と比べてどうか ・東雲憲章を毎日心がけているか ・東雲憲章をほこりに思うか
4	○健康について 1年生のみんなが健康についてどのように思っているか、どんなことに気をつけているのかを調べる	・1日の運動時間はどのくらいか ・きちんと1日3食食事をしているか ・1日の睡眠時間はどのくらいか ・睡眠時間はどれくらい必要か ・いつも健康について気をつけていることは何か

5	○体育祭について 今年の体育祭についてみんながどう思っているか知り、来年につなげていくため	・小学校と中学校の体育祭はどこか違いがありましたか ・今回の体育祭で心に残ったことは何か ・今回の体育祭で反省する点は何か ・来年の体育祭の目標は何か
6	○中学生の想像力について	・宇宙人はいると思うか ・宇宙人の想像図 ・宇宙人（の体）はどんなイメージか ・宇宙人の性格について、どんなイメージがあるか ・もし目の前に宇宙人が現れたらあなたはどうか
7	○サークル活動について サークル活動について、みんなの意見を知る	・サークル活動は必要だと思うか ・どういうサークルを作りたいか

(3) 後期の取り組み

後期はアンケートによって得た情報を整理し、自分たちの考察を加えて発信することを通し、相手に分かりやすく伝えるための方法を学ぶことを目標とした。

1時間目はアンケート結果の集計を行い、分かりやすく伝えるためにはどのような方法が適切であるかをグループごとに話し合わせた。場合に応じて一番適切な表やグラフを使用する、色分けをする、など各グループで自分たちの質問項目に合わせた整理の仕方を考えることは同時に相手（＝発表を聞く人）を意識することである。

どのグループも集計にはそれほど時間はかからなかったが、その結果を考察しまとめるのには時間がかかっていた。グループで「どんなグラフにするか」「何を使って発表するのか」など話し合うことが、相手を意識することにもつながっていったと考える。模造紙に書いて発表するグループ、実物投影機を使って発表するグループ、中にはパソコンを使ってグラフを作成するグループもあり、限られた時間の中でそれぞれが工夫してまとめていた。

また発表の際には「相手に伝わるように分かりやすく話すこと」を目標として、グループごとに準備をさせた。事前に話し方や資料の提示の仕方など、どのようにすれば相手に分かりやすいかを整理していった。十分な練習時間をとることはできなかったが、グループ内でリハーサルを行い、話し方や資料提示のタイミングなどをチェックするなど、限られた時間の中で努力する姿が見られた。どのグループも細かい役割分担をして全員が参加する形で発表会を行うことができたことは、今後の研究にも活かされるのではないかと考える。

また他のグループの発表についても、真剣に耳を傾け、発表後の相互評価ではよかったところや課題などを出し合うことができた。細かい内容についての質問や、発表の仕方についての意見も出されるなど、聞く人を意識した活動をおこなうことで、聞く立場になった時にも学習したことが活

かされたと感じる。

(4) 自己評価と相互評価

本講座の評価については前期は自己評価、後期は自己評価・相互評価とした(図2, 3)。前期の自己評価については各講座の中で教師側がインタビュー形式で指摘や指導・支援が行える形をとった。

評価用紙は保護者にも見て頂き、授業内容や授業における生徒の姿勢・学習を通してつけた力などを伝えることができた。

後期は自己評価に加えて、それぞれの発表を聞いた相互評価も行った。このことで生徒同士のコミュニケーションも行うことができ、自分たちの発表をふり返る材料になったようである。「相手を意識した発表」を目指すことで、「聞く態度」「相手への評価の返し方」も学ぶことができた。

生徒の感想の中に「アンケートをとってその結果をいろんな人に伝えるのは楽しいことだと思った。結果をグラフにするときにどのようなグラフにするかをもっと考えたり、発表するときはできるだけ前を向いた方がよかった。」「アンケートを作ってそれをみんなに伝えてもらい、集計してグラフにするのは大変だったけど、最後は達成感があった。」「みんなで協力すれば早くできると思った。」「内容を分かりやすくするのも大変だった。」「アンケートがこんなに大変だとは思わなかった。アンケートをとっている人は苦労しているし頑張っていると思うから、今度からアンケートに応えるときはまじめに応えようと思った。」など、この講座を通してアンケートそのものについてだけでなく、グループ内での協力や発表の仕方まで学ぶことができたようである。

第1学年 総合的な学習の時間(前期)自己評価チェック表

*担当教員と相談し、当てはまる項目に○印をつけて提出すること

第1学年 _____ 組 _____ 番 生徒氏名

保護者印

指導者	チェック項目	とてもよくできた	だいたいできた	課題が残った	
	インタビュー				
天野	わかりやすく質問することができたか				指導者印
	うまく話の内容をつなぎながら聞くことができたか				
	相手に対して礼儀正しく行動することができたか				
	一生懸命に取り組むことができたか				
	情報処理				
柳三原樹	情報の収集・処理・発信の流れが理解できたか				指導者印
	目的に合った情報の収集ができたか				
	班で協力して取り組むことができたか				
	情報や情報機器を正しく取り扱うことができたか				
	バリアフリー				
奥野	自分から進んで活動することができたか				指導者印
	「バリアフリー」を自分のこととしてとらえることができたか				
	支え合って生きることを積極的に考えることができたか				
	住みやすい社会と自分の出来ることを考えることができたか				
	プレゼンテーション				
松前	関心・意欲をもって学習に取り組むことができたか				指導者印
	相手に伝わるような表現を工夫しようとしたことができたか				
	相手にわかりやすい内容を発表することができたか				
	他のメンバーの発表をよく聴き、高め合うことができたか				
	アンケート・集計				
川三原樹	主体的に学習に取り組むことができたか				指導者印
	他のメンバーの話をよく聞き、高め合うことができたか				
	アンケートの基礎的・基本的方法が理解できたか				
	目的に応じたアンケート用紙を作ることができたか				
備考					

図 2 自己評価チェック表

第1学年総合的な学習 <アンケート調・集計> 評価シート

1年()組()番 名前()

○他のグループの発表を聞いて
()グループ

1	アンケートの内容	目標がよく分かる内容になっているか	5・4・3・2・1
		分かりやすい質問をしているか	5・4・3・2・1
		レイアウトなどをよく考えて構成されているか	5・4・3・2・1
2	発表の内容	図や表などを使って分かりやすくまとめられているか	5・4・3・2・1
		機器の利用など工夫して発表しているか	5・4・3・2・1
3	発表の態度	相手に伝わるようにはっきりと発表しているか	5・4・3・2・1
		発表するときの態度は適切か	5・4・3・2・1
		グループで協力できているか	5・4・3・2・1
<感想・気づき>			

○自分のグループの活動をふり返って

1	アンケート作成まで	調査したい内容をうまく尋ねることができたか	5・4・3・2・1
		グループで協力して質問紙を作成できたか	5・4・3・2・1
2	集計と結果の分析	レイアウトなど工夫することができたか	5・4・3・2・1
		グループで協力して集計することができたか	5・4・3・2・1
3	発表の内容	目標にあった分析をすることができたか	5・4・3・2・1
		結果が分かりやすくまとめられたか	5・4・3・2・1
4	発表の態度	工夫して発表することができたか	5・4・3・2・1
		相手に伝わるようにはっきりと発表できたか	5・4・3・2・1
		発表するときの態度はよかったか	5・4・3・2・1
グループで協力できていたか			

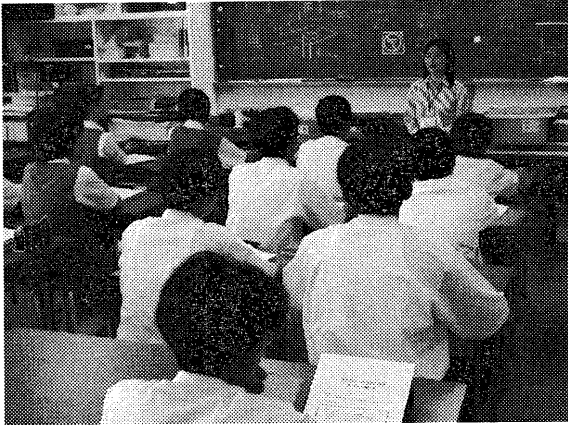
前期・後期を通じてこの講座で学んだことや感想をまとめよう

図 3 アンケート調査・集計 評価シート

IV. 結果と考察

前期の最後に生徒が自己評価した結果、アンケート調査・集計の講座について「とてもよくできた」と評価した生徒が36%、「よくできた」36%、「できた」22%と、90%以上の生徒が「できた」と評価した。アンケート調査・集計の講座だけでなくすべての講座で同様の結果を得ている。また、ローテーションで行う中で、他の講座で得た知識が次の講座で活かされるという場面も多くあった。例えばプレゼンテーションの講座を経験したグループは、まだ学習していないグループに比べると、発表の役割分担などもスムーズに行うことができおり、役割分担や発表の組み立てなどもうまくできていた。

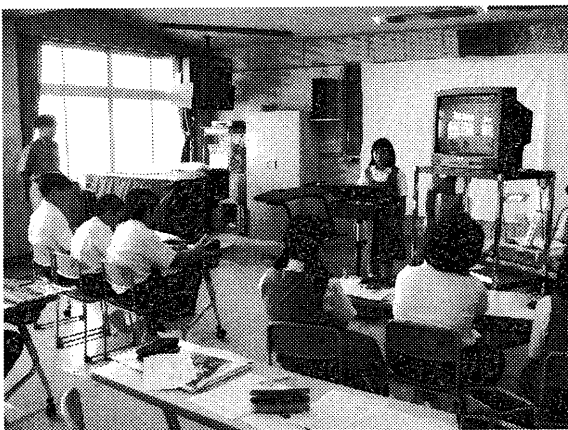
しかし大切なのは今年度のこれらの取り組みが来年度以降にいかにか活かされるか、ということである。したがって、来年度は定期的に現1学年の生徒を対象にアンケートなどを実施し、2学年以降の「研究」あるいは「横断的な学習」にこの1年間の基礎・基本の学習がどのように役に立ったか、改善点はないかということを追調査していく必要があると考える。同時に「研究」や「横断的な学習」をしていく中で「こんな講座があればもっと役に立った」と思うものが出てくるかもしれない。実際に「研究」をしていく生徒自身の意見を採り入れながら、私たちも再度開設講座の見直しや、内容の細かい部分の検討が必要になってくるであろう。「学年全体に基礎・基本を」という姿勢は崩さず、来年度はさらに中身の濃い講座にしていきたいと考えている。



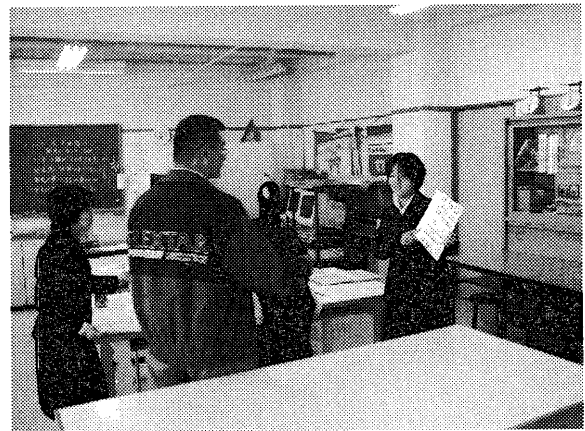
オリエンテーション（アンケート調査・集計）



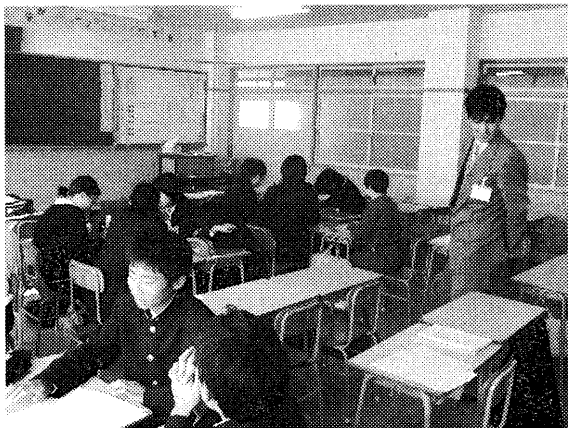
車椅子実習（バリアフリー）



発表練習（プレゼンテーション）



発表練習（情報処理）



打ち合わせ（インタビュー）



1学年総合発表会

図4 学習活動の様子

引用・参考文献

藤原 敏広・三柘正典, 「明日を担う生徒を育てる『総合的な学習の時間』のあり方—『福祉』をテーマにすえて—」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育」, 第34集, 2002.